

## ナトリウム利尿ペプチドが慢性心不全患者の入院の予測指標に

心臓の収縮機能不全患者の入院や病状の悪化において、**B型ナトリウム利尿ペプチド (BNP)**や**N末端プロB型ナトリウム利尿ペプチド (NT-proBNP)**の血中レベルの変化との関係についてメタ分析により検討した。

19件のランダム化比較研究（被験者数1万2,891人）が対象となり、追跡期間の中央値は**9.5**カ月であった。メタ回帰分析の結果、**BNP**および**NT-proBNP**は心不全の悪化による入院のリスクと有意に相関していた（回帰係数：**0.036**）。

したがって、慢性心筋収縮機能不全の悪化による入院の予測指標に**BNP**や**NT-proBNP**の血中レベルの変化が有用である可能性が示唆された。これらのバイオマーカーの変化の測定を、臨床の場にどのように組み込んでいくのかは今後の課題である。

出典：Journal of the American College of Cardiology. Heart Failure. 2014; 2:  
148-158